

(要旨)

COVID-19患者における回復期血漿療法の臨床アウトカムの検討を目的として、システマティックレビューおよびメタアナリシスを実施した。PubMed, medRxiv, Web of Science, Scopusで文献検索を行い、2020年12月10日までに発表された論文でCOVID-19に対する回復期血漿療法の有効性を検討したものを特定した。主要エンドポイントは、死亡率、臨床的改善、および入院期間とした。検索基準を満たした研究859報をスクリーニングし、論文56報のフルテキストを精査して、メタアナリシスへの組み入れ基準を満たす論文15報を特定した。回復期血漿投与群では、対照群と比較して、死亡率のオッズが有意に低かった〔OR 0.59;95%信頼区間(CI) [0.44～0.78]; $p<0.001$ 〕。ただ、主要な2つの無作為化比較試験の結果は死亡率に関するベネフィットを支持していなかった。臨床的改善のオッズは、対照群と比較して回復期血漿投与群で有意に高かった(OR 2.02;95%CI[1.54～2.65]; $p<0.001$)。入院期間は、回復期血漿投与群と対照群との間で差はなかった(MD -0.49日;95%CI[-3.11～2.12]; $p=0.713$)。総じて、これらのデータから、COVID-19に対する回復期血漿療法のベネフィットはあるが、死亡率に対する回復期血漿のベネフィットは未だ明確ではないことが示された。